

第64回



品質月間

2023年11月1日～11月30日

テーマ

原点回帰! 人づくりと強い現場で創る 新時代の品質

Back to the Basics! Quality in a New Era Created by Human Resource Development and Strong Workplaces

品質月間(Quality Month)を迎えて

COVID-19は沈静化の方向に向かい、マスクの着用の非義務化、感染症5類への移行など、収束したとはいええないものの、ようやく次のステージに進んだといえるところまで来ました。「これで元の生活に戻れる」と喜ぶ方もいますが、たとえCOVID-19が収束したとしても、完全に元の世界に戻ることはないと思われまます。この3年で働き方や生活様式に多くの変革もたらされ、産業界の品質創造のあり方も、この新時代に適合するように新たなパラダイムの構築が求められています。

COVID-19に対応するための様々な対策は、応急対策としてその場しのぎでとられたものもあれば、今後永続的に有効と思われる本質的な対策もあります。真に変えなければならないものと、変えてはいけなものを峻別し、新たな品質創造のためのパラダイムを探索する必要があります。そこで、今年の品質月間では、「原点回帰! 人づくりと強い現場で創る 新時代の品質」というテーマを設定しました。

原点回帰は、顧客を満足させる品質を創造するには何をすべきかを、あらためて見つめようというメッセージです。COVID-19という外乱に振り回された今だからこそ、原点に立ち返り、着実に守るべき普遍的な考え方、活動の基盤が何かを明らかにすべきです。中でも、TQMの強みである人づくり、現場力は、品質創造のために外せない基盤です。ただし、それをどう実行していくかは、これまで築いてきた方法論のみでは不十分であり、DX、AIなども取り入れながら、新たな方法論を開発していく必要もあるでしょう。今年の品質月間では、ポストCOVID-19の出発にあたり、皆様とともに、原点に立ち戻って今後の目指すべき方向を考える機会にしましょう。

第64回品質月間委員会

委員長 棟近 雅彦(早稲田大学 理工学術院 教授)

品質月間委員会

委員長

棟近 雅彦 早稲田大学 理工学術院 教授

副委員長

金子 雅明 東海大学 情報通信学部
情報通信学科 教授
高倉 宏 トヨタ自動車九州株式会社
TQM推進室 室長

委員

伊藤 桂一 株式会社日立製作所
モノづくり戦略本部 部員
川合 拓 株式会社竹中工務店 経営企画室
TQM推進部 TQM推進部長
河野 正樹 NECプラットフォームズ株式会社
CS品質推進本部 品質推進統括部
統括部長
佐野 雅隆 拓殖大学 商学部 経営学科 准教授

沢 茂樹 株式会社リコー プロフェッショナルサービス部
品質統括センターQM推進室 エキスパート
高橋 純一 JSR株式会社 製品・品質保証部
執行役員

富永 雄二郎 本田技研工業株式会社 品質監理部
品質システム教育課 課長

新倉 健一 前田建設工業株式会社
安全・品質・環境監査部 グループ長
松井 健 株式会社日本経済新聞社 東京本社編集局
ビジネス報道ユニット 日経産業新聞編集長

丸山 一彦 和光大学 経済経営学部 教授
森田 晶彦 株式会社IHI 高度情報マネジメント統括本部
セキュリティプロジェクト部
品質保証グループ グループ長

山口 由貴子 株式会社LIXIL 安全・品質統括部
品質企画部

吉田 靖 花王株式会社 技術開発センター
品質技術グループ グループ長

吉水 健二 アサヒグループジャパン株式会社
SCM部 シニアマネージャー

主催団体 委員

小野寺 将人 (一財)日本科学技術連盟
専務理事・事務局長
下境 健一 (一財)日本規格協会 業務執行理事
丸山 範久 日本商工会議所 事業部長

後援団体 委員

田中 大輔 (一財)日本消費者協会 事務局長
柳本 直行 (公財)日本生産性本部
経営品質協議会 事務局長

(敬称略 五十音順 ※但し、委員長、副委員長除く)

掲載している情報は2023年8月1日時点のものです。

主催

品質月間委員会 一般財団法人 日本科学技術連盟
日本商工会議所 一般財団法人 日本規格協会

後援

NHK 一般社団法人 日本品質管理学会 公益財団法人 日本生産性本部
一般社団法人 日本能率協会 一般財団法人 日本消費者協会 QCサークル本部
一般社団法人 日本経済団体連合会 一般社団法人 品質工学会

品質月間ホームページ(<http://q-month.jp/>)もご参照ください

品質月間特別講演会

講演概要

- コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度もzoomによるオンラインで開催いたします。
- PC、タブレット、スマートフォンからご参加いただけます。
- 日程、講演内容は準備でき次第、順次品質月間サイトへ掲載予定です。
(詳しくは月間サイトへ <http://q-month.jp>)

参加申込要領

【参加料】 1講演 ¥2,200(税込)

品質月間テキストの料金は含みません。テキスト購入サイトよりご購入ください。

【申込方法】

JSA Webdesk からお申込みください。

トップページ(<https://webdesk.jsa.or.jp>)
セミナー・説明会 公開セミナー
または、「日本規格協会 セミナー」で検索

お申込みいただいた方には、受講のご案内(請求書、開催案内等)を原則開講1か月前にお送りいたします。請求書受領後請求書に記載の期日までにお振り込みをお願いいたします。
定員になり次第、お申込みを締め切らせていただきます。
詳細はウェブサイトをご覧ください。

【キャンセルの取り扱いとお願い】

キャンセルの場合は開催1週間前までに Webdesk「お問い合わせフォーム」によりご連絡をお願いいたします。ご欠席の場合は返金をいたしませんので、代理の方のご出席をお薦めいたします。なお、キャンセル・ポリシーは以下の通りです。

キャンセル・ポリシー
教材受領後のキャンセルは一切受け付けません。
受講料全額(100%)のキャンセル料を申し受けます。

【ライブ配信について】

ライブ配信 セミナーでは、Zoom Web 会議サービスを利用いたします。

<動作環境>

受講用パソコン及びモバイルの動作環境については、Zoom の最新のシステム要件をご確認ください。

<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>

受講前にこちらをご確認ください。

https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/seminar/kensyu_kaijyo/live1.pdf

第64回 品質月間資料申込書

年 月 日

郵便番号	電話番号	()
住 所		
ふりがな 社 名	事業所名	
部 課 名	ふりがな 氏 名	印
メールアドレス		

※表示価格は税込(10%)です。

品 名	コード	定価(税込)	部 数	金 額
テキスト No.464	21000	627円		
// No.465	21010	627円		
// No.466	21020	627円		
// No.467	21030	627円		
// No.468	21040	627円		
// No.469	21050	627円		
// No.470	21060	627円		
※テキスト No.464~470(1セット)	21070	3,762円	セット	
標語 (5枚1組)	19023	330円	組	
胸章 (10個組)	19093	583円	組	
// (50個組)	19101	2,783円	組	
ポスター A	19152	385円		
ポスター B	19162	385円		
ポスター (2枚セット)	19011	627円	組	
Q 旗 A1	19031	2,530円		
// A2	19041	2,530円		
// B	19051	2,277円		
// 特大	19061	4,389円		
垂 幕 Aセット	19071	4,664円		
// Bセット	19081	4,664円		
垂幕生地 A	19401	2,783円		
// B	19411	2,783円		
垂幕用鉄製パイプ	19391	1,881円		
のぼり Aセット	19202	7,535円		
// Bセット	19212	7,535円		
// Cセット	19272	7,535円		
のぼり生地 A	19241	1,881円		
// B	19251	1,881円		
// C	19261	1,881円		
のぼり用ポール	19281	1,265円		
のぼり用置き台	19291	4,389円		
卓上のぼり	19221	2,530円		
			小 計	
			送 料	509円(税込)
			合 計	

※上記価格には10%の消費税が含まれております。

ご注意：納品は9月下旬～10月中旬の予定です。

送 料：下記の表以外は各月間資料の価格に送料を加算してご請求させていただきます。なお、送料欄に表示の金額は2023年12月末までとし、以後は実費をいただきます。

送 料 サ ー ビ ス			
テ キ ス ト	100部以上	垂 幕	15セット以上
ポ ス タ ー	200枚以上	胸 章 (1 0 個 組)	100袋以上
標 語	100組以上	胸 章 (5 0 個 組)	20袋以上
Q 旗	10枚以上		

株式会社 日科技連出版社 営業部 販売管理課

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 DSビル
TEL 03(5379)1238 FAX 03(3356)3419

https://www.juse-p.co.jp/
Eメール q-gekkkan@juse-p.co.jp

ご注文はFAXが便利です。

FAX : 03(3356)3419

■個人情報の取り扱いについて：ご記入いただいたお客様の個人情報は、今後の新刊・雑誌等のご案内に利用させていただくことがございます。また、その個人情報は、弊社において法令及び内部規則に基づき厳重に管理いたします。

第64回を迎える品質月間では、次の7冊の品質月間テキストを販売いたします。

仕事に役立つ知識や事例がたくさん詰まっています。是非、皆様のスキルアップの一環として、あるいは品質活動に関する教材として品質月間テキストをご活用ください。

No.	対 象	テキストタイトルと主な内容	編著者
464	トップ 部課長	1.『改善人材が える「日本一のまごころ 院」への道』 当院では、1992年のQCサークル活動導入以降、改善文化の醸成に努めてきました。QCサークル活動を含めた「改善活動の3つの型」を整備し、人事制度に改善のスキルと知識を組み込んだ「改善人材開発プログラム」を構築することで、多くの職員が改善活動を経験する環境づくりを進めました。本テキストでは、当院の改善文化の象徴とも言える「セル看護提供方式®」をご紹介します。「看護師がいつでも患者さんに関心を寄せ、患者さんのそばで仕事をやる」ために、改善手法を駆使して生まれた革新的看護方式で、看護の質の向上、ひいては看護師のやりがいを高め、残業時間や離職率の減少などの効果を得ています。	株式会社 生 院 編
465	トップ 部課長	2.『事例から学 品質不正防止のポイント』 本書は2022年に発覚した品質不正の事例を分析して、不正防止のポイントを説明するものです。第1章では品質不正に関する基本事項をまとめ、第2章で日野自動車のディーゼル不正、第3章で島津製作所子会社の故障偽装を取り上げます。第2章と第3章ではそれぞれのケースに特徴的な問題点に着目して、再発防止策を考えます。不正防止策は社内立場によって出来ること異なるので、それぞれの立場の人に伝えたいポイントをまとめます。	元 芝浦工業大学 教授 安 著
466	部課長 スタッフ	3.『顧客価値創造に役立つ方針管理とは ～CVC(Customer Value Creation)方針管理の提案～』 方針管理研究会CVCリサーチチームは、「顧客価値創造と方針管理を結びつける方法の研究」に取り組み、モデルケースを設定の上、活動プロセスを洗い出し、体系化を進めました。研究を通して明らかになった点として、顧客価値創造はプロジェクトチームでチャレンジする組織形態が主流であることから、方針管理のプロセスも社内外連携で取り組む必然性に加えて、方針を管理する上で重要な目標値、管理項目に関しては、潜在課題を見える化するに従って評価要素、特性を具体化していく機能展開的な視点を要すること、さらには年次、月次にとられない機動力のある管理が求められる点などが挙げられました。本書では、その要諦について解説します。	方針管理研究会 CVCリサーチチーム 著
467	一般	4.『DN7によるデータ駆動型品質管理とアジャイル改善』 現在多くの企業がDX化への変革に取り組んでいる。ところが、製造現場のDX化は思うように進まない。例えばIoTを導入してデータを集めても、そのデータ活用が思うように進まない。その打開策として考案したのがDN7である。本テキストでは、DN7を使ってデータに潜む問題を発見し、改善提案に結び付けるまでの一連のステップの紹介を通じ、データ駆動型品質管理とアジャイル改善の取り組みについて論じる。	株式会社デンソー 吉野 著
468	部課長 スタッフ	5.『「危険学」を利用した危機管理～潜在リスクまで ーする～』 時代の変化の中で、従来型の危機管理の方法では想定外の問題に起因する事故やトラブルを回避するのは難しくなっている。事が起こったときに実害や企業イメージの低下など甚大な被害をもたらす大事故や大トラブル。その原因となる潜在リスクを見つけ出し、効果的な対処法までを導くことができる、「危険学」を利用した新しい危機管理の手法や安全教育のあり方を詳しく解説する。	畑村創造工学研究所 代表 東京大学名誉教授 畑村 郎 著
469	部課長 スタッフ	6.『Z世代とどうかわる 管理職・リーダーのためのコミュニケーションガイド』 現代は社会環境やビジネスシーンの変化が早く、価値観が多様になっています。そのため、世代間ギャップに悩む管理職やリーダーが少なくありません。本テキストは、管理職やリーダーが直面する「Z世代とのコミュニケーション」を円滑にするためのガイドです。若い世代の特徴を理解するためのヒントやパワハラやモラハラを避けるためのコミュニケーションの方法、価値観のギャップを埋め、成長を促すマネジメントスキルなど、価値観の違いをチャンスに変え、部署を活性化する方法についてご紹介します。	特定非営利活動法人 しごとのみらい 理事長 竹内 著
470	一般	7.『QCサークル活動を推進しよう 』 本テキストは、『QCサークル』誌2022年上期運営・推進のページに半年間にわたって掲載された記事を編集し直したものです。昨年4月でQCサークルは還暦を迎えました。QCサークル活動をさらに発展・成長させていくためには、これまでと同様に推進の仕方・ノウハウが重要です。一度、復習のつもりで読んでいただければと思います。もしかしたら、新たな発見があるかもしれません。	QCサークル誌運営・推進 のページ(2022年上期) 小委員会 編

※テキストのタイトル・編著者など一部が変更になる場合もございますので予めご了承ください。